

たまねぎレポート【352号】



平成29年2月27日

阪南青果株式会社

社内報

1月の月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。降水量は、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本で少なかった。東・西日本で平年並みだった。日照時間は、西日本でかなり多く、北日本の日本海側と東日本で多かった。北日本の太平洋側と沖縄・奄美は平年並みだった。降雪・積雪は、西日本で多く、北日本と東日本で少なかった。2月の天気は数日周期で変わり、気温変動が大きい。春一番は関東、北陸が17日、関西、西日本は20日であった。梅の開花は例年より早かった。

気象庁が発表した3～5月の3ヶ月予報では、此の期間の平均気温は、北・東日本で平年並み亦是高く、西日本と沖縄・奄美で高い。降水量は、東日本の太平洋側と西日本で平年並み亦是少ない。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様曇りや雪亦是雨の日が多く、太平洋側では平年同様晴れの日が多い。東日本の日本海側では、天気は数日の

周期で変わる。東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年に比べ曇りや雨の日が少ない。気温は、北日本で平年並み亦は高い。降水量は、東日本の太平洋側と西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

4月、全国的に天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。降水量は、西日本で平年並み亦は少ない。

5月、北日本と東日本と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年同様に曇りや雨の日が多い。気温は、北・東日本で平年並み亦は高い。西日本と沖縄・奄美も平年より高い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

1月の主要5都市中央卸売市場の野菜の入荷は、前年並みか増となったが、平均単価は入荷増であった福岡を除き前年比高であった。市場別に入荷量と価格は、札幌市場の入荷は前年比92%、平均価格はkg¥192前年比116%。東京市場は前年比103%の入荷で、平均価格はkg¥252前年比106%。名古屋市場は前年比100%の入荷で、平均単価はkg¥235前年比108%。大阪本場の入荷は前年比100%で、平均単価はkg¥246前年比111%。福岡市場の入荷は前年比112%平均単価はkg¥166前年比98%となっている。

主要市場の1月の玉葱入荷は、主力の北海道物は主要市場重点の出荷体勢となったことや静岡物が入荷増で、入荷は予想以上に順調で総ての市場で前年並みか前年を上回った。市場別では、札幌市場の入荷は4,581トン前年比116%、平均単価はkg¥63前年比111%。東京市場は10,342トンの入荷で前年比108%、平均単価はkg¥97前年比11

9%。名古屋市場の入荷は6,407トン前年比117%、平均単価はkg¥80前年比113%。大阪本場の入荷は3,563トン前年比100%、平均単価はkg¥94前年比105%。福岡市場の入荷は3,539トン前年比139%、平均単価はkg¥90前年比111%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の1月の販売量は、86,159トン前年比108%(前月比93%)。平均単価はkg¥152前年比109%(前月比99%)で平年並みの水準に近付いた。入荷が前年比増となった品目は、タマネギが前年比130%、ナスが128%、ホウレンソウが125%など11品目(前月は8品目)。前年比減となったのは、キャベツが前年比91%、バレイショが96%、ニンジンが99%の3品目(前月は6品目)。価格が前年比高であったのは、キャベツが前年比167%、ニンジンが160%、バレイショが158%など7品目(前月は9品目)。前年比安であった品目はレタスが前年比76%、サトイモ77%、ナスが82%など7品目(前月は4品目)。玉葱は、入荷が前年比30%増で価格は前年比6%高となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷は、123,907トン前年比103%(前月比94%)であった。主要品目で前年比増となった品目は、ナスが前年比121%、レタスが120%、ホウレンソウが118%など10品目(前月は7品目)、前年比減となった品目は、ニンジンが前年比91%、バレイショが95%、キャベツが99%など5品目(前月は6品目)。平均単価はkg¥252前年比106%(前月比93%)で、ほぼ平年並みの水準に値下がりした。なお、主要品目の入荷量と平均単価は次表の通りである。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	123,907	103.0	93.7	252	106.3	02.7
た ま ね ぎ	10,342	108.3	90.4	97	119.2	129.3
は く さ い	13,811	109.9	93.7	93	201.4	112.1
キ ャ ベ ツ	14,792	98.6	104.3	106	180.5	94.6
だ い こ ん	13,153	101.4	100.3	81	140.1	90.0
ば れ い し ょ	7,268	94.9	97.5	198	155.4	104.8
に ん じ ん	6,787	91.4	80.1	155	195.7	104.7
レ タ ス	7,889	119.8	92.0	219	79.9	94.0
き ゆ う り	4,911	106.3	109.4	394	86.8	84.9
ト マ ト	5,223	109.6	118.1	424	89.6	73.5
か ぼ ち ゃ	2,245	88.5	82.0	183	97.5	72.6
れ ん こ ん	603	83.6	50.0	644	130.1	108.4
な が い も	684	86.0	84.6	472	129.8	93.1
に ん に く	268	86.3	84.8	1,160	212.3	99.2

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の入荷は、10,342トン前年比108%（前月比90%）で順調であった。静岡の早生物が前年比倍増した。北海物が主力で、北海物の入荷は8,955トン前年比102%、占有率は87%で前年比5ポイントダウン。静岡物の入荷は1,071トン前年比215%、占有率は10%で前年比5ポイントアップ。中国物の入荷は223トン前年比112%、占有率は2%で前年と同じ。平均単価はkg ¥97前年比119%（前月比129%）で総じ

ては強含みで推移した。総じて強含みであったのに加え、静岡物の占有率上昇で平均単価を押し上げた。産地別の月平均価格は北海物がkg ¥79前年比114%、静岡物はkg ¥238前年比91%、中国物はkg ¥93前年比82%であった。亦、旬別では、上旬の入荷は前年比92%で平均単価はkg ¥93。中旬の入荷は前年比115%で単価は¥96。下旬の入荷は前年比108%で単価は¥97で、チリ高基調であった。

2月上旬の入荷は前年比107%、平均単価はkg ¥100前年比108%入荷増の単価高であった。玉葱は、他野菜に比べ割安感もあり売れ行きは順調であった。主力の北海物の入荷は安定化し、前年を上回る状態が続いたが、引き合いが強く、需給は均衡からやや品薄傾向となった。上旬の北海物の平均単価kg ¥81前年比114%と強保合で推移した。静岡の新物の入荷も順調で、上旬は前年比140%の大幅増となったが、荷凭れすることもなく平均単価はkg ¥213で大きな値崩れはなく完売出来た。中旬は開市日が前年比1日少なかったが、入荷は前年比117%、平均単価はkg ¥103前年比102%。引き続き堅調を維持した。産地別では、北海物は前年比117%の入荷で、平均単価はkg ¥83前年比115%。静岡物は前年比105%の入荷で、平均単価はkg ¥210前年比85%となっている。此処に来て、北海物は先高ムードが強まり、荷受け各社は強気の販売に転じており、来週からの入荷は更に減少が予想され、相場は一段高となりそう。新物は静岡がピークを過ぎ、続く長崎、佐賀物は生育遅れで出荷が後ズレするとのことで高値持続の可能性が強い。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の1月の玉葱の入荷量は、6,407トン前年比117%(前月比76%)で順調であった。北海物主力の販売で、北海物の入荷は6,122トン前年比113%、占有率は96%で前年比3ポイントダウン。静岡物は259トンの入荷で前年比610%、占有率は4%で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg ¥80前年比113%(前月比119%)で強保合で推移した。産地別の

平均単価は、北海物はkg ¥ 71前年比106%、静岡物はkg ¥ 270前年比59%となっている。

2月に入って、北海物の入荷は順調で安定化し、荷動きも回復傾向となった。市況は他市場に比べ割安の場面もあったが、日毎に引き合いが強まり、相場は強保合となった。静岡の新物はまずまずの動きであったが、静岡、愛知の新物の葉付きは、買参人に興味がなく売りづらい状態が続いた。此処に来て、静岡、愛知の新物の引き合いが強まり、品薄高となり月初めより値上がりしている。北海物も荷動きが良く、市況は堅調に推移しているが、入荷は減少傾向で品薄感が強まっている。産地からは1~2月の出荷が計画を上回ったことに加え、商品化率の低下で、3月出荷は減量すると通告されている。従って3月相場は品薄高となりそうだ。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は、3,563トン前年比100%(前月比90%)で、新物の静岡産が前年比倍増し、主力の北海物は前年を下回った。北海物の入荷は、3,022トン前年比98%、占有率は85%で前年比1ポイントダウン。兵庫物の入荷は294トン前年比79%、占有率は8%で前年比2ポイントダウン。静岡物は233トンの入荷で前年比206%。占有率は7%で前年比4ポイントアップ。平均単価はkg ¥ 94前年比105%(前月比121%)で、北海物の入荷減で市況は強保合で推移した。高値の静岡物の占有率が上昇したことで平均単価を押し上げた。産地別では、北海物はkg ¥ 73で前年比109%、兵庫物はkg ¥ 182で前年比83%、静岡物はkg ¥ 257で前年比94%となっている。

2月に入り、北海道物の着荷は、輸送の関係等の影響もあり、バラリツキが大きく、数量的にはやや減少傾向となったことや、転送需要の動きが回復し、品薄高傾向となった。相場は下値が少なく中値が多くなり、総じて¥100高となった。静岡の新物は、入荷増から前月下旬に比べ10%程度値下がりにした。淡路

の冷蔵物は、総じて品質劣化と新物への移行が進み人気離散で続落した。上旬の入荷は前年比84%、平均単価はkg¥92前年比105%。産地別では、北海物の入荷は前年比80%、平均単価はkg¥76前年比110%。静岡物は184%の入荷で、単価はkg¥213で80%。淡路物は87%の入荷で、単価はkg¥123で59%。中旬の入荷は前年比95%、平均単価はkg¥97前年比104%。産地別では、北海物の入荷は前年比92%、単価はkg79で116%。静岡物は前年比156%の入荷で、単価はkg¥209で80%。淡路物は前年比82%の入荷で、単価はkg¥131で62%となっている。此処に来て、淡路物の相場は保合ながら人気離散で荷動きが鈍化。北海物は先高ムードのなか、仲卸のストック買いが旺盛で強保合。静岡、長崎物は量販店からの注文が増え、引き合い強く品不足で強保合の状態が続いている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱の入荷は、3,539トン前年比139%(前月比72%)で順調あった。引き続き北海物主力の販売で、北海産の入荷は3,223トン前年比141%、占有率は91%で前年比1ポイントアップ。中国産は209トンの入荷で前年比105%、占有率は6%で1ポイントアップ。富山産は57トンの入荷で前年はなし、占有率は2%。平均単価はkg¥90前年比111%(前月比115%)であった。産地別では、北海産はkg¥84で前年比111%。中国産はkg¥85で前年比89%、富山産はkg¥293で前年はなく比較出来ずとなっている。

2月に入って北海物は、JAからの入荷が減少傾向で、品薄状態が続いている。価格は銘柄別、売り先別にバラツキがあるものの総じては保合の動きであった。月後半から長崎物の入荷が始まったが、少量で売り込みを仕掛ける状態ではなく、小口売りに終始し割安販売となった。北海物も入荷が少なく、産地の期待に副えるよう極力高値販売に努めた。此処に来て、ホクレン傘下のお荷が減少し、転送業者からの集荷で凌いでいるが、いずれの荷主からも値上げ要請

が強い。佐賀のJA物も少量入荷しているが、価格提案は予想外に高く、売り込めるような水準ではない。2月1日～20日までの集計では、入荷量は前年比141%、平均単価はkg¥94で前年比115%となっている。

2月24日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷168トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥1,600～1,550、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,550～1,500、
M¥1,300～1,200。

北海道 20kgNTL大 ¥1,650～1,600、L ¥1,550～1,500、M¥1,400～1,200。

【太田市場】 入荷303トン、弱保合

北海道 20kgDB2L¥1,700～1,600、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,800～1,600、
M ¥1,500～1,400。

静岡 10kgDB2L¥2,100～2,000、L ¥2,600～2,500、M ¥2,300～2,200、
B¥2,000～1,800。

長崎 10kgDB2L¥2,000～1,800、L ¥2,600～2,500、M ¥2,300～2,200。

愛知 10kgDB2L¥1,900～1,800、L ¥2,400～2,300、M ¥2,100～2,000。

佐賀 10kgDB2L¥2,100～2,000、L ¥2,700～2,600、M ¥2,500～2,400。

【名古屋北部】 入荷74トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥1,600～1,500、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,800～1,700、
M ¥1,600～1,500。

静岡 10kgDB2L¥2,000～1,900、L ¥2,600～2,500、M ¥2,300～2,200、
B¥1,800～1,700。

愛知 10kgDB2L¥1,900～1,800、L ¥2,400～2,300、M ¥2,100～2,000。

【大阪本場】 入荷142トン、保合

兵庫 10kgDB2L¥1,500～ 800、L ¥1,800～ 800、M ¥1,400～ 600。

北海道 20kgDB2L¥1,700～1,600、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,800～1,600、
M ¥1,500～1,400。

静岡10kgDB2L¥2,300～2,200、 L ¥ 2,800～2,600、 M ¥ 2,600～2,400、
B ¥ 2,200～2,000。

長崎10kgDB2L¥2,200～2,100、 L ¥ 2,600～2,500、 M ¥ 2,500～2,400、

【福岡市場】 入荷131トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥1,800～1,600、 L大 ¥ 1,800～1,700、 L ¥ 1,800～1,700、
M ¥ 1,800～1,700。

長崎10kgDB2L¥1,800～1,600、 L ¥ 2,600～2,300、 M ¥ 2,300～2,100。

佐賀10kgDB2L¥2,000～1,800、 L ¥ 2,600～2,400、 M ¥ 2,400～2,20

供給(産地)の動き

1月の野菜市況は、鎮静化したものの消費者の間では、野菜は高いとのイメージは払拭されるまでには至らなかった。その中で割安で推移してきた玉葱の消費は意外に堅調で、北海産地の出荷は計画を上回ったと云うし、静岡産地の出荷も大幅な増加となった。他方、在庫の少ない淡路産の冷蔵物は売れ行き不振で出荷は伸びず、市況の続落で減価割れとなっている。

主力の北海産地では、順調な出荷を背景に先高期待ムードが浸透している。年内の出荷進度は前年を下回ると予想されたが、ホクレン傘下のJAの進度はほぼ計画通りの65%に達したと報告されている。越年在庫が前年を下回ったことと、1、2月の出荷が計画を上回ったことで、先高期待が強まっている。

府県産地の早生は、静岡は豊作で前年を上回るものの、続く長崎、佐賀を始め西日本産地の早生は、定植遅れと定植後の天候不順で、生育が大幅に遅れており、3月出荷も大幅減になると予想されている。また、昨年春に大発生したべト病の再発懸念から生産者の表情は厳しい。

北海道産地

昨今の市況の好転で、3～4月の高値期待が浸透し、出荷は後ズレ傾向の気配にある。ホクレンでは3～4月の出荷は前年比92%の計画である。在庫が

豊富と言われていたオホーツク地方でも、年明けの前倒し出荷と商品化率の低下で、在庫は計画を下回るとして、3～4月の出荷を抑制する気配にある。現在、手持ちのある生産者の間では、産地相場はL、L大20kg裸値で¥1,500に上昇している。既に、次シーズンの播種、育苗の最盛期となっているが、極早生は種不足で早や出し物の作付け減を余儀なくされることや、積雪の少ない産地では、夏場の天候が多雨になることが心配だと話している。

府県産地

府県産の早生物は、豊作型で順調な出荷が続いている静岡では、既にピークを過ぎ、順次長崎、佐賀物に移行する時期に来ているが、九州を始め西日本産地の早生は、育苗、定植期の天候不良で、苗立ち不良による減反と生育遅れで、出荷は2週間程度後ズレしている。漸く出荷が始まった状態で、3～4月の出回り量は前年を大きく下回る予想である。昨年ベト病の大被害を蒙った佐賀では、関係者が一丸となって、罹病株の抜き取りや薬剤防除に懸命である。早生に罹病が散見されるものの、中晩生に罹病は見当たらないと話している。

防除が徹底している淡路では、ベト病の発生は昨年よりも少なく、2次感染を警戒していると聞く。生育については、定植の時期に依る圃場格差が大きいものの、10月に定植した早生の生育は順調とのこと。2/9の定点調査では、中生のターザンの草丈は14.7cmで前年比96%、晩生のモミジ3号は16.1cmで前年比101%と報告されている。

外国産地

1月の輸入は、速報値で、19,419トン前年比128%。国別の輸入量では、中国が18,451トン前年比127%。アメリカが919トン前年比173%、となっている。

中国、現在、韓国からの引き合いが強く、日本向け価格は、ムキ玉20kg・C&F・\$8.80～8.90。

ニュージーランド、生育後期に、寒波と早魃が続いたことで、球肥大は小粒傾

向であるが、球締りが良く品質良好で、日本向けの商談が始まっている。現在の価格は、20kg・C&F・¥1,100～1,150。

3月の市況見通し

北海物は、出荷が前倒しとなり、完売見通しが付いたことで、産地関係者の間に先高ムードが強まり、出荷は市況眺めから抑制傾向になっている。市場関係者の間でも、3月高を意識してランニングストックを増やす動きにあり、入荷が増加しても完売となっている。他方、府県産の早生物の出荷後ズレで需給はタイトの方向にあり、3月は北海物 20kgL大 ¥2,000～1,800の予想。(了)